



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

# ロンドン日本人学校だより 9

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際  
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

2021(令和3)年

月1日発行 ロンドン日本人学校  
令和3年度 第5号

## 東京オリンピックの示した「価値」

～2学期始業式式辞より 校長 石山 秀樹

この夏休みの前半は、東京オリンピックが開催されました。そして今、障がいのある方によるパラリンピックが引き続き開催されています。昨年実施されるはずだった東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナのために1年間実施が延長され、今年も引き続き新型コロナの流行が収まらない中、その開催については疑問の声も多くあったことは皆さんも耳にしたかもしれません。

それでも私は、世界最高の舞台で見られた選手の一人心な取組、競技にかける集中した姿に、純粹に心を打たれました。結果としてメダルをとった選手だけでなく、出場した一人一人皆がその日のために練習し、コンディションを整え、それぞれが様々なストーリーを背負ってこの舞台に立ったことでしょう。一発勝負の大舞台にかけるこの上ない真剣さ、それは人の心を揺さぶるものだと私は感じました。

TV 放映された種目を見ていると、英国と日本では人気種目が違うのだ、ということを感じましたし、これまで自分があまり知らなかった競技の面白さにも気づかされました。しかし、私の心に残ったのは、2つの競技です。

1つは、柔道です。柔道では日本でも多くのメダリストが出ましたが、中でも私が注目したのは、73kg級の大野将平選手です。大野選手は5年前のリオデジャネイロオリンピックでも金メダルを手にし、この東京オリンピックで2連覇となりました。大外刈りを得意技とし、組手からの一本勝ちによる日本柔道の美しさ、潔さを体現してきた大野選手は、2014年以降、オリンピックを含め、不戦敗を除いて外国人選手に負けたことがないといえます。「自分が1割の力しか出せないときに相手が10割の力を出してきたとしても勝てるくらいの、圧倒的な力の差というものが必要だと思って稽古をした」という大野選手は2016年リオオリンピックで金メダルを手にし、頂点を極めます。しかしその後、彼は、「何のために戦うのか」と悩み、「強い選手たちはたくさんいるが、リオの時の1つ完成した大野将平というのがいちばん最大、最強の大きな敵なので、そこにいかに並び、上回って行くか、勝っていくか。柔道人生で最強の大野将平を求めている。人が行けない、見られない境地に行く」として、この東京オリンピックを目指す決意をしました。世界中の相手が自分を倒すことを目指してくる王者としてのプレッシャーに耐えて東京オリンピックの豊に上がった大野選手は、勝ち上がった準決勝と決勝で「自分の中でも今まで感じたことのない、恐怖の中で戦っていた」と語っています。心

技体とよく言われますが、最後は自分自身の「心」との戦いだということでしょう。決勝を勝ち切った大野選手はガッツポーズなどすることなく、会場の豊に向けて深々と頭を下げました。私はそこに、伝統を受け継ぐ強さ、心の美しさを見たように感じました。

一方、今回から新たに加わった競技であるスケートボードでは、現在中学1年生で、日本史上最年少の金メダリストとなった開心那選手をはじめ、日本も多くのメダリストを出しました。しかし、それまで世界ランキング1位とされ、絶対王者とまで言われていた15歳の岡本碧優選手は、この大一番の最後のトリックをミスし、4位に終わりました。しかしその後、これは多くのマスコミ等にも取り上げられましたが、ミスをしたにもかかわらず他の選手が岡本選手のもとに集まり、抱きかかえて祝福したのです。それは、この大舞台で困難な技にチャレンジした、その果敢さを讃えたものだといえます。オリンピックはあるルールの下で競技を行い、順位付けをし、メダルを授与します。それは勿論価値のあることです。しかし、スケートボードではその他に、たとえ失敗したとしても大技に「チャレンジ」することに価値が置かれている、そして、それを認め合う「文化」があると感じました。

この2つの競技は、同じオリンピック競技でありながら、とても違っていると感じます。しかしそれはどちらが優れている、どちらが素晴らしいというものではなく、それぞれに見る人の心を打つような頂点がある、二つの世界がある、ということです。オリンピックがそのように様々なスポーツ、多様な世界、多様な価値を私達に示しているということに、私は大きな意味があると思いました。

この2学期、皆さんには学校の授業、係活動、高学年や中学部では委員会活動、明後日の写生大会をはじめとする学校学年行事、10月22日・23日には本校の2大行事の一つである文化祭といった、皆さんの活動の場、チャレンジの場があります。皆さんは、どのような2学期にしますか。様々な活躍の場があるここロンドン日本人学校の2学期で、皆さんがまた一回り、大きく成長することを願っています。皆でよい2学期にしましょう。

### 教職員の異動について

1学期末で、英会話の Alexander Finch 講師が退任されました。本校での御活躍、まことに有難うございました。

### ロンドン日本人学校公式 Blog

ロンドン日本人学校の“今”を伝える  
公式 blog を御覧ください。

